

# くるま旅

Kuruma Tabi®

FREE  
MAGAZINE  
2012

VOL. 008

一般社団法人  
日本RV協会発行 JRYA®

家族の「絆」を約束する  
温かい空間



食寝遊備

[ くうねるあそび ]  
kuu-neru-aso-bi



# 食寝遊備

[ くうねるあそび ]

[ kuu-neru-aso-bi ]



## キャンピングカーは、あらゆる「遊び」とリンクする魔法のアイテム

キャンピングカーほど、さまざまな遊びをサポートするアイテムはほかにない。

- たとえば、釣り。
- サーフィン。
- スキー・スノーボード。
- バイク競技・サイクリング。
- ハイキング・軽登山。
- 天体観測・天体撮影。
- バードウォッチング ……

もちろん、温泉めぐり、グルメスポットめぐりは、多くのユーザーの共通した楽しみとなっている。

このように、キャンピングカーをどう活用しようと、それはユーザーの気持ちのおもむくままにいいのだが、もし、キャンピングカーに付いている機能をいちばん手っ取り早く試してみたり、またその機能を最大限に生か

そうと思うのだったら、まずキャンピング場に行き込んでみる。それがキャンピングカー遊びの原点。

キャンピング場は、決して単なる「キャンピングする場所」ではないのだ。キャンピングカーの機能をもっとも有効に、かつ楽しく引き出す場所といっている。

### キャンピング機能を最大限生かすなら、やっぱりキャンピング場泊

キャンピング場が、キャンピングカー泊に向いている理由は、まずそれが、法的にも社会常識的にも認められている「宿泊施設」だからである。

道の駅や、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアは、あくまでも「休憩施設」。もちろん疲れを癒すための仮眠は認められて

いるものの、そこで「宿泊してもいい」ということは明文化されていない。

### キャンピング場泊の最大のメリットは電源確保

「宿泊施設」と「休憩施設」とでは、そこで受けられるサービスそのものが違ってくる。

まず、キャンピングカーの機能を十分に生かすためには、電気の供給が大切になる。キャンピング場では、たいてい100ボルトのAC電源サービスを受けられるので、電気の供給が滞る心配から解放される。

もちろん、一晩過ごすくらいならAC電源の供給のないところでも、走行充電によってサブバッテリーに貯められた電気で、室内の照明、テレビ、冷蔵庫、あるいはFFヒーターくらいは十分賄える。

しかし、バッテリーが弱っているときや、ま

た走行充電がままならなかったときなどには不安が残る。キャンピング場泊の大きなメリットは、まず電源が確保されることにある。

### キャンピング場のように水場が確保される場所はほかにない

次に、水場の確保。キャンピングカーにはたいてい流しが付いており、車内に取り付けた水タンクを通じて水を使うようになっているが、この水タンクに補充する水の確保がキャンピング場以外では難しい。

同様に、車内で食事したときに汚れた皿やコップを洗う場所も、キャンピング場以外で見つけるのは難しい。それらのことを、道の駅やサービスエリアなどで行ったりすると、他の利用者が快く思わないからだ。しかし、キャンピング場には、水の補給や食器洗いをを行うのに適した施設がすべて整っているので、とても安心だ。

### ゴミ処理・トイレ処理もキャンピング場なら安心

ゴミの処理においても、キャンピング場なら簡単。近年ますます道の駅やサービスエリアのゴミ捨て場に「家庭ゴミ」を捨てることに対する監視の目が厳しくなってきた。

しかし、キャンピング場なら、キャンピング時に発生したゴミを捨てる場所がしっかり定められているので、そこに捨てておけば大丈夫だ。

カセットトイレやポータブルトイレを持つキャンピングカーも増えてきたが、便利な反面、

その汚物処理に困る人も多い。これもキャンピング場ならば、汚物タンクをトイレで処理することに関しても理解が得やすい。なかには、カセットタンク専用の処理場所を設けているキャンピング場さえある。

また、アメリカ車のトイレタンクは日本車とは少し違った構造になっているが、そういう特殊なトイレタンクに対応した処理施設(ダンプステーション)を持っているキャンピング場も多い。

### 「安全」と「安心」が確保されるキャンピング場泊

もうひとつ、キャンピング場泊のメリットは、「安全」と「安心」の確保にある。

もちろん、日本の治安の良さは世界でもトップレベルにあるから、戸外でキャンピングカー泊をしていたときに何かの犯罪に巻き込まれたという例は、ほとんど聞かない。

しかし、それでも「何か起こるかも…」という不安だけは解消されない。

その点、キャンピング場は、管理人が常駐することが多く、夜間はゲートなどでクローズされることが多いため、セキュリティが確保される。キャンピング場に用のない車両が進入してくることもないので、場内にいる限り、小さなお子さんやペットが事故に巻き込まれることもないし、夜間は安眠が保証される。

### ファミリーで楽しむメニューが豊富

キャンピング場は、小さなお子さんがいらっしやるファミリーに向けた宿泊場所である。なぜなら、そもそも日本のキャンピング場が「家族

のレジャー」を想定してつくられた施設だからだ。欧米では、キャンピング場利用者の主流はシニア夫婦となるが、日本のキャンピング場は、子供のいる家族を中心に企画され、発達してきた。

だから、ほとんどのキャンピング場には、子供用遊具施設がそろっており、また夏休みなどには、各キャンピング場が独自に考案した子供向けイベントが集中して続く。なかでも昆虫採集や星座観察、お絵描き教室、クラフトワークなどは、どのキャンピング場でも定番メニューとなっている。

また、場内施設の設計や構造も、小さなお子さん目線で企画されているものが多く、子供たちが安心してアウトドアに興じられる環境が整えられている。



# 食寝備遊

[くうねるあそび]  
kui-neru-aso-bi

## 「道の駅」を回る醍醐味のひとは、新鮮な地元食材に触れること



地元の新鮮な野菜がふんだんに並べられる「よしおか温泉」物産コーナー

キャンピングカー旅行における「道の駅」というのは、いわば、ラクダの背に乗って砂漠を旅する商人たちのオアシスのようなもの。身体から抜けた水分、食料を補給する場であると同時に心身の疲れを癒し、次の旅に備えて鋭気を養う場所だ。

そして、そこはまた、観光情報や道路交通情報などを効率よく入手するインフォメーションスポットでもある。

近年、このような休憩・情報発信機能に加え、利用者に、地域の新鮮な食材や料理を提供しようという動きが顕著になってきた。

これは、日本に限らず、いま世界的な流れとなっている「スローフード運動」や、「地産地消」といった地域限定の伝統食材の復活運動とも連動している。つまり、1960年代以降、世界中を巻き込んでいったファーストフード文化への見直しというテーマともリンクしているといえそうだ。

ファーストフードは、確かに手軽に、しかも場所を選ばず、どこでも同じレベルの味が楽しめる。しかし、反面いつも同じ味と同じサービスが供給されるため、旅の途中に食べ続けていると、旅をした実感も薄くなる。

そういうとき、「道の駅」の特産品コーナーに集まってくる地元食材は、買って食べれば新発見があるだけでなく、旅する醍醐味を教えてくれる。

とにかく、このような動きが顕著になってきたおかげで、「道の駅」利用者は、今まで中央の流通に乗ることのなかった各地の珍しい食材、隠れた美味を、ドライブの途中で発見することができるようになった。

このような地元食材をおみやげとして買って帰るときにも、キャンピングカーは便利。冷蔵庫を常備している車種も多く、物の保管にも困らない。また、物を収納するスペースにも余裕があるので、アイスボックスや保冷庫を積むことも簡単。もちろん、キャンプ場に泊まって、その日のうちにキャンプ料理として使うという手もある。

### 新鮮素材の農作物が人気 「道の駅よしおか温泉」

特産品コーナーが充実している「道の駅」の代表が、群馬県吉岡町にある「道の駅よしおか温泉」である。



肉類、魚介類も豊富

ここには、「かざぐるま」という物産館があって、地元の新鮮な農作物が手に入ると評判だ。名物の上州麦豚のほかにも、近隣の畑で採れたナス、キュウリ、トマト、トウモロコシなどの農作物のほか、新鮮なイカ、マグロなどの刺身や干物、タラコ、うなぎなどの海産物も並べられている。特に、北海道・十勝の大樹町漁港から直送される鮮度の高い魚介類は、この海産物コーナーの目玉になっている。

この物産館の扱う品目が豊富なのは、観光客をターゲットに品揃えしているだけでなく、地元住民に食材を供給する目的もあるからだという。近隣に住む人々は、ここで温泉を楽しみ、そのついでに食材を買って自宅に帰る。まさに、地元の生活に密着した道の駅なのだ。

だから、自然と地元の人たちとの交流も生まれる。それこそキャンピングカーの旅ならではのコミュニケーションを楽しめる。

この「よしおか温泉」(リバートピア吉岡)



足湯を楽しむ観光客

目の前にゴルフ場が広がる「よしおか温泉」のレストラン

は、温泉の泉質も評判。地下1300メートルの地盤から湧き出る高温アルカリ天然温泉で、慢性皮膚炎、神経痛などに絶大な効果を発揮する。

ちょっとだけ休憩したいという人のために、足湯も用意されているので、旅を急ぐ人は、この足湯に浸かるだけでも“温泉気分”が味わえる。

施設の前は、目も鮮やかなグリーンが広がるゴルフ場。ケイマンゴルフ、パークゴルフ、グランドゴルフが楽しめる。ゴルフ場と温泉館の前にはサイクリングロードが続き、さらには、乗馬クラブも近い。

温泉、食事、地元食材、サイクリング、ゴルフなど、さまざまな楽しみが効率よく味わえる「よしおか温泉」。北関東を旅するときは、ぜひ寄ってみたい。

関越自動車道の「渋川伊香保インター」から5km。クルマで約8分。風力発電のために造られた大きな風車が目印。

## くるま旅のマナー

キャンピングカーで旅行するときは、やはり人の迷惑にならないような心がけが必要。マナーを守ることによって、地元の人々や旅の仲間との交流が生まれる。マナーを守って、楽しいくるま旅を。

- 道の駅や高速道路のSAやPAなどの公共の駐車場では、連泊、長期滞在を行わない。
- キャンプ場以外の公共駐車場で休憩をとるときは、オーニングを広げたり、椅子やテーブル、バーナーなどを車外に持ち出して使わない。
- 公共駐車場の洗面所などで食器や食材を洗ったり、そこから電源を引いてキャンピングカーに接続したりしない。
- 旅行中や移動中に発生した大量の生活ゴミを、公共駐車場のゴミ箱などに投棄しない。
- カセットトイレやポータブルトイレの処理は主に、キャンプ場か自宅。また、公共駐車場の水道設備を利用した給水はできるかぎり控える。
- 生活排水用のグレータンクの汚水をその場に垂れ流したり、側溝に捨てたりしない。
- 公共駐車場におけるジェネレーター(発電機)の使用は、他の利用客が休憩していたり、近所に民家があるような場所では控える。
- オフ会やクラブミーティングで公共駐車場に集合する場合は、騒音に注意。
- 道の駅や高速道路のSA・PAにある椅子マークの駐車場には、健常者のみが乗車しているときは駐車しない。
- 無駄なアイドリングによる排気ガスの流出や騒音は避ける。

### Information

道の駅「よしおか温泉」 群馬県北群馬郡吉岡町漆原2004 ☎ 0279-54-1221

営業時間/休館日

○ クラブハウス・案内所棟 8:30~17:00 (毎月15日、15日が土日祝の場合は翌日または翌々日、年末年始は休館)

○ 温泉館 10:00~21:00 (毎月15日および奇数月の15~16日は休館、15日が土日祝の場合はその翌日か前日、詳しくは問合せを)

○ 物産館 9:00~19:00 (年中無休)



## キャンピングカーで ライフラインを持つクルマの頼もしさを実感

武石泰幸さん／武石優子さん

# キャンピングカーで震災を乗り切る

昨年の3・11東日本大震災では、多くの被災者が津波や地震で家を失う経験をした。そういう方々のために、仮設住宅の建設も進められたが、その対応が迅速かつ適切に行われたわけではなかった。エリアによっては、仮設住宅の供給が遅れた場所もあったからである。しかし、キャンピングカーを所有していたために、仮設住宅に入居するまでライフラインを確保しながら自活できた人々もいた。

仙台市・宮城野区の仮設住宅で暮らしている武石泰幸さん(28歳)と、その奥様の優子さんがその例。若いお二人が、約一ヶ月の間、キャンピングカーを使ってどのような生活をされていたのか、ご夫婦から直にお話をうかがった。

武石さんのご主人が津波に襲われたのは、会社の近くの海沿いの道を、営業車で走っていたとき。「ふと、海側を見ると、盛り上がった波の上で、たくさんクルマが踊るように迫ってくるのが見えた」という。逃れようとしても、すでに渋滞でクルマが動かない。

武石さんは、急いでクルマを乗り捨て、波の反対側に向かって走った。

「幸い、知らない整備工場の前を走っていたとき、そこの方が親切にも“こっちへ来い”と手招きしてくださったんです」それで、整備工場の2階まで緊急避難。1階は水で被われたが、2階まで及ぶことはなく、なんとか一命をとりとめた。

奥様の優子さんも、やはり海辺の会社に勤務していた。津波が襲ってくるのを見て、みな建物の屋上まで駆け上がった。まもなく、濁流が道路を埋め尽くし、激しい奔流が会社の1階まで流れ込んできた。幸いなことに、

水は屋上までは及ばなかったが、代わりに、まったくの陸の孤島になってしまった。翌朝になって、自衛隊に救助されるまでは、寒さと不安で寝られなかったという。

しばらく、携帯電話も通じなかったので、ご夫婦とも、お互いの安否を確認することができない。水が引いて歩けるようになるまで、ともに不安な日々を過ごした。

4日目に、ようやく電話がつながった。

サーフィンが趣味の武石さんは、知り合いのサーフショップに身を寄せていた。親族の家に避難していた優子さんは、サーフショップまで歩き、ようやくお互いの無事を確認することができた。

しかし、家は失われていた。

武石さんは住んでいたアパートを流され、優子さんは両親の住んでいる実家を失った。

「どこで暮らそうか」そう相談し合ったが、答えは簡単に出た。お二人は、キャンピングカーを持っていたのである。ガス設備を持ち、水タンク、トイレ、ベッドが完備した小型キャブコン。サーフィンを楽しむために海岸で宿泊したり、キャンプにもよく出かけていたので、使い勝手は分かっている。避難所に入るよりも、プライバシーが確保できるというメリットも享受できる。

運もよかった。

もし、いつものように、住んでいるアパートのそばにキャンピングカーを停めていたら、あっけなく水に流されていただろう、という。ところが、たまたま車検を受けるために、いつも世話になっているキャンピングカーショップにクルマを出していたところだったのだ。

二人のキャンピングカー暮らしが始まる。

いちばん助かったのは、飲料水や生活用水をプールできる清水タンクを備えていたこと。オリジナルのタンク容量は、50リットルだったが、前オーナーが94リッターまで増設していたので、ボイラーを焚いて温水シャワーを浴びるのも楽しかった。サーフィンを楽しむには、シャワーは必需品。そう考えていた武石さんは、とにかく水タンクの容量が大きいことが、購入するときの必須条件だった。そのことにこだわったことが、震災を乗り切るために役立つことになった。ただし、近辺の水道が止まっているので、水の補充が大変。

ガソリンの供給が途絶えていたので、むやみにクルマを動かすわけにもいかない。仕方なく、自転車にポリタンクを積み、水道が機能していた公園まで出向いて、水を補充したという。

電気の供給も止まっていたので、電源の確保も課題だった。しかし、ルーフにソーラーパネルを積んでいたことが幸いした。それによって蓄えた電気は、夜は照明とFFヒーターを作動させた。

ガスはプロパンボンベ。もちろん、使いきってしまうと、その補充はなかなかやっかいだ。

ところが、旦那さんの勤める職場がライフラインに関係する会社だったので、プロパンガスの充填にも心配がなかった。

ダイネットテーブルをベッドメイクして、サイドソファにつなげれば、そのままオールフルフラットな就寝スペースも誕生。ベッドの寝心地がいいため、深い睡眠を確保することもできて、それが仕事の疲れ癒すのに役立った。また、個室トイレがあるので、寒い夜でも、いちいち外に出る必要がなかった。

家を失うという悲劇を味わうことになったが、キャンピングカーがあったために、生活

する場所は確保できた。キャンピングカーを持っていたことのありがたみが、今までは違った形で実感できたという。

仲間もいた。

武石さん夫妻が世話になったサーフショップのオーナー家族も、同じようにキャンピングカーを持っていたのだ。

寝るときは、敷地内に停めた2台のキャンピングカーにそれぞれ別れ、「おやすみ」の挨拶を交わし合って休む暮らしが続いた。

日々の食事はどうしていたのか。

「そのサーフショップのオーナーが親切な方だったので、食事はその家族の方々と一緒にとることができました」と、武石さん。

最初のうちは、食材も十分に出回ってなかった。「オーナーが備蓄していた米を分けていただいて、一緒に食べたり、あとは缶詰を開けたり…。お米だけ食べても、こんなおいしいものだとはじめて知りました」と、武石さんは、当時を思い出して笑う。

そのうち、少しずつ食糧も流通するようになり、近所の小学校などで配給も始まった。

サーフショップとの付き合いがあるサーフボードメーカーが、いちはやくいろいろな物資を届けてくれたことありがたかったという。

現在、武石夫妻は、宮城野区に建てられた仮設住宅で暮らしている。被災直後に「家」替わりに使ったキャンピングカーは、再び、ご夫婦でサーフィンやキャンプを楽しむためのツールに戻った。

「たぶん、もうキャンピングカーから離れた生活はできないでしょうね。いざというときに、これだけ役に立つ道具になることも分かったし、サーフィンやキャンプに使えば、震災の辛さを忘れさせてくれる楽しいアイテムになることも理解できましたから」

ご夫婦ともそう語る。

まさに、JRVAがキャンピングカーライフの標語として提唱する「食、寝、遊、備（くうねるあそび）」を完璧にまっとうした例のひとつであるかと思う。



# 食寝遊 備

[くうねるあそび]  
kuu-neru-aso-bi



照明、エアコン、テレビなどの電気器具が使えるキャンピングカーの室内



本格的な固定コンロを備えたものから、卓上コンロを置いただけのものなど、コンロもさまざま

# つまりキャンピングカーは「動く家」

## 食寝遊 備

[ くうねるあそび ]  
kuu-neru-aso-bi

キャンピングカーは基本的に「プチハウス」である。つまり、「家」とほぼ同様のライフラインを整えた乗り物である。もちろんその充実度は、車種や価格帯によって異なり、中にはライフラインの一部しか整備されていないものもあるが、基本的には冷暖房、電気、水道、ガスなどの設備を最初から搭載しているか、もしくは注文によって取り付けることができる。

家庭と同じように、  
照明、テレビ、冷蔵庫などが使える電気

キャンピングカーは、ベース車のエンジンを切った後でも、室内を照明で明るくしたり、テレビを見たり、冷蔵庫を使ったりすることができる。

このようなことが可能となるのは、キャンピングカーの場合は、自動車用のバッテリーとは別に、室内の電気製品を使うためのサブバッテリーというものを搭載しているからだ。

サブバッテリーは普通に走行していれば自然に充電できるようになっているが、走行

せずに長期間同じ場所に滞在していると、蓄電量がそのうち減ってしまう。

それを補う方法として、発電機やソーラーシステムなどが普及している。ただ、発電機は音が発生するため、使える場所が限られてくるし、ソーラーは現状の蓄電効率では、いまだ補助電源の域をでない。

今のところ、宿泊中に安定して電気を供給してもらえるのは、キャンプ場が用意しているAC電源設備である。

コンロやボイラーを動作させるガス設備

キャンピングカーに搭載されているコンロには、カセットガスを熱源とする簡易的な卓上コンロから、プロパンガスを利用して本格的な調理が可能な大型コンロまでさまざまな種類がある。ボイラーを搭載している車種なら、さらにプロパンから引いたガスなどを使って温水をつくることもできる。

また、冷凍食品やレトルト食品を中心に調理メニューを考えるならば、電子レンジを用

意しておけばコンロの補助として役に立つ。近年は、ガスに代わって電磁調理器を採用する車種も出ている。

上下水道も完備

ほとんどのキャンピングカーには、シンク（流し）と蛇口が付いており、清水タンクから汲み出した水で、手や顔を洗ったり、簡単な洗い物ができる。使った水は、今度は排水タンクに流され、溜まったら適宜オーナーが捨てるようになっている。

清水タンクの容量は車種によってさまざま。10リッタークラスの小型のものから、100リッターを超えるタンクを備えるものもある。シャワーなどを使いたいときは、当然タンクの容量が大きい方が便利だが、走っているときは、その分重量が増えることも意識しておいた方がいい。

トイレは便利だが、清掃はオーナーの役目

トイレに関しては、オーナーの好みが分かれる。「絶対必要だ」という人から、「トイレス

ペースよりも、就寝スペースや収納スペースを優先すべきだ」という人まで千差万別。

しかし、昨年の震災後、家が倒壊したり流されたりして、「家のトイレが使えなくなった」という声も多く聞かれたことから、トイレのついたキャンピングカーへの関心が高まっている。

国産車では、固定便座を持つカセット式と、トイレ自体を持ち運び出来るポータブル式という二つのタイプが普及しているが、いずれも汚物が溜まったときは、オーナー自身が家庭のトイレなどに廃棄して、自分で清掃しなければならない。

最初はそれを面倒に思う人も多いが、慣れてしまった人は、口々に「トイレは必需品」だと語る。

エアコン、ヒーターなど  
空調設備はみな快適

キャンピングカーは断熱処理を施されたボディで構成されているため、乗用車に比べると外気温に左右されず、比較的暑さ・寒さをしのぎやすい。しかし、それでも高温

多湿の日本の夏には、エアコンがあった方が快適なのは事実。

そのため、キャンピングカーには、運転席周りを冷やすカーエアコンとは別に、室内専用のエアコンが用意されている。通常は、ルーフエアコンやウインドウエアコンが主となるが、近年は家庭用エアコンを取り付けた車種も増えている。

いずれもAC電源で駆動させるため、外部100V電源につながるか、発電機を使う必要がある。また、複数のサブバッテリーとインバーターを組み合わせるとエアコンを駆動させるモデルも出現している。

暖房に関しても、ベース車のヒーターとは別に、車内専用の暖房機器が普及している。もっともポピュラーなものは「FFヒーター」と呼ばれるもの。これは、ガソリンや軽油など、ベース車の燃料をそのまま使用するヒーターで、燃料タンクを満タンにしておけば、いつでも心配なく使えるという便利なもの。エンジンを切った状態で使えるので、脱・騒音、脱・排ガスに貢献し、環境保全にも適している。

FFヒーターとは別に、LPGを使うガスヒーターも、静粛性の面で人気がある。



電磁調理器を採用する車種も増えている

ポリタンクの清水タンクと排水タンク



電子レンジもキャンピングカーの人気装備のひとつ



キャブコンに多いカセットトイレ



持ち運びが便利なポータブルトイレ



エアコンもキャンピングカーの人気装備のひとつ

# 「震災復興にキャンピングカーが できること」

をテーマに、JRVAが被災地にキャンピングカーを貸与



電気、水道設備、ガスコンロなどのライフラインと安眠できるベッド機能を備えたキャンピングカーを、地震や津波で家を失った東北の方々に使ってもらえないだろうか。

そう考えた日本RV協会は、昨年8月、宮城県・石巻市長の要請を受けて、キャンピングカーおよびキャンピングトレーラー合わせて15台を、震災の被害が大きかった石巻市に無償貸与した。

これは、同市の公民館や学校の体育館などで避難所暮らしを続けていた方々が仮設住宅に移行するまでの「つなぎの宿泊施設」として貸し出されたもの。

また、その15台とは別に、被災者たちの支援活動を続けるボランティアのための休憩室・執務室として使うためのキャンピングカーも別に用意された。

避難所暮らしを続けていたある被災者の方は、キャンピングカーの貸与に関し

て次のように語る。

「震災を受けてから数ヶ月くらい経つと、やはりプライバシーが保たれる空間がどうしても欲しくなります。そこで、私たちの場合は、貸していただいたキャンピングカーに、みなが交代で入り、それぞれ日にちや時間を決めて、自分だけの時間を取り戻すようにしました。

みな思い思いに、車内で自分の好きな音楽をかけて楽しんだり、一人でゆっくりと寝転んだりなど、自分だけの空間を思いっきり満喫しました。中にはうれしくなって、音楽をかけながらダンスを踊ったりした人もいたみたいですね。とにかく、キャンピングカーのおかげで、心のうおいを取り戻すことができたように思います」

避難所から仮設住宅に移るステップとして、キャンピングカーを使うことのメリットをボランティア活動にも従事したNPO

キャンパーの飯田芳幸さんはこういう。

「キャンピングカーやキャンピングトレーラーというのは、避難所から仮設住宅へ移るときに間のステップとして非常に利便性が高いのです。というのは、しばらく避難所生活を続けていると、たいていの人は自立した生活と縁遠くなるため、いきなり仮設住宅に入ると戸惑うことが多いからです。

そこで、まずこのようなキャンピングカーを使って、簡単な煮炊きの感覚などを思い出してもらったり、プライバシーの保証される環境はこんなに良いものだったのだ、という感覚を取り戻してもらう。そのステップを踏むことで、仮設住宅で暮らすときのトレーニングができるようになります」

仮設住宅は、居住性においては優れた部分も多いが、一度建設してしまうと、その撤去や移動も簡単にはいかないという。

そのため、学校の敷地などに建ててしまうと、復興が軌道に乗ってきたとき、その敷地が本来の目的を果たすことが難しくなることも。

飯田さんによると、「その点、キャンピングカーやトレーラーというのは、タイヤが付いているので移動も簡単。だから、その地域での目的を果たした後は、さらに避難されている人々の多い地域に自在に運ぶこともできるし、「仮設住宅村」のような場所ができれば、そこに暮らす人々の集会所や相談場所などに転用することもできます」とのこと。

なお、日本RV協会では、この石巻市のほか、南三陸町にもキャンピングカーを貸し出して、復興支援に協力している。

また、同協会が東北の被災地に貸与したキャンピングカーは、被災者の自立支援を有効に進めるものと評価され、その後は、仮設住宅以外のことにも利用されている。



日本RV協会の増田浩一副会長(復興支援プロジェクトリーダー)より、宮城県・石巻市に記念のキーが贈呈される

被災地の介護施設の敷地内に置かれて、被災者たちの「憩いの空間」として活用されている日本RV協会のキャンピングカー

貸与式の会場である石巻市の「おしか家族旅行村」に勢ぞろいした15台のキャンピングカー

新作映画紹介

東宝

## 日本列島 いきものたちの物語



### 自然に触れるキャンピングカーの旅を より大切に感じられる映画

海洋に囲われ、その面積の7割以上を山林が占める島々に、われわれ人間とともに日本列島に棲む個性豊かな動物たちを、撮影陣は2年以上の歳月をかけて丹念に追います。

カメラは、北海道・知床の厳しい大自然に暮らすヒグマの親子から、沖縄県・西表島の豊かな海に棲む魚たちまで、日本各地の動物たちを、美しい四季の移ろいとともに優しく見守っていきます。

とかくわれわれは、「日本＝人間の住むところ」と捉えがちですが、人間は面積にして全体の3割に集中して住んでいるにすぎません。自然は等しく、時には冷徹に、時には優しく、そこに暮らす全ての「いきものたち」と接していることを今一度実感させてくれる作品です。自然に「生きさせてもらっている」のは登場する魚や動物たちだけではなく、われわれも一緒です。

生も死も、実りもすべて自然の摂理であり、だからこそ美しく儚い。豊かな日本の自然を映し出した映画です。この映画を観終わったあとの風景はきっと違ったものに感じるでしょう。

「キャンピングカー」はそんな自然に触れるための脚であり、手段です。家族と一緒にこの切なくも愛らしい隣人たちに逢いに行くのもいいかもしれません。もちろん、せっかくなので温泉もお食事もお土産も楽しみです。(和)

information

「日本列島 いきものたちの物語」 2012年2月4日より公開  
ナビゲーター: 相葉雅紀 長澤まさみ ゴリ(ガレッジセール) 黒木瞳  
監督: 出田恵三  
音楽: 服部隆之





# 食寝遊備

[ くうねるあそび ]  
kuu-neru-aso-bi

「食寝遊備（くうねるあそび）」  
それは、キャンピングカーの特徴を表現した魔法の言葉。

キャンピングカーはその小さな空間に「食（食べる）こと」の喜び、「寝（寝る）こと」の快適さ、「遊（遊ぶ）こと」の楽しみ、そして自然災害などを被ったときに、ちょっとした暮らしを維持するための「備（備え）」を詰め込んだ乗り物です。

そこには、家族の「絆」を約束する温かい空間と、  
長距離旅行やキャンプを自在に楽しめる生活機能が用意されています。

あなたは、グルメ派？ それとも、旅行派？ あるいは、スキーや、キャンプや、釣りを楽しむアウトドア派？  
もしかしたら、災害時の緊急避難場所としてキャンピングカーを用意しておこうという堅実派？

大丈夫。そのようなニーズのすべてをキャンピングカーは満足させてくれます。

「食寝遊備」そのすべての要素をひとつにまとめた魔法の“小箱”。  
キャンピングカーは、あなたの望む幸せをひとつにまとめた夢の小宇宙です。



少女たちが、二組に分かれて互いを揶揄する子守唄を披露したという故事にちなんで作られた「宇目の唄げんか」の子守少女像



道の駅・宇目内の「レストランうめりあ」



名物「ししラーメン」



人気が高い「石釜焼きビザ」。自分たちで作る人たちが多い



新設されたドッグラン



キャンプ村の貸別荘感覚のケビン

キャンピングカーで、日本中のグルメを堪能 九州編

# 南国九州の野性的グルメに舌鼓

キャンピングカー旅行のだいご味は、なんといっても、地元的新鲜な食材を使った郷土料理に直に触れること。最近、ドライブ旅行の休憩地として親しまれる「道の駅」でも、地元グルメに接する機会が増えた。

全国の「道の駅」のレストランでは、今どんな料理が生まれているのか。また、どんなメニューが好評なのか。

今回はその九州編として、九州・沖縄の道の駅・産直所などを中心に旅情報を紹介しているフリーペーパー『ふらっと』の編集部スタッフに、九州グルメを堪能できるお薦めスポットを紹介してもらった。

**絶品の猪肉・鹿肉で、野性のバイタリティを取り戻そう！道の駅 宇目(大分県)**

「宇目(うめ)」は宮崎県との県境近く、国道326号沿いにある人気の道の駅。

祖母傾山(そばかたむきやま)山系の山々に囲まれ、木々の緑と清涼な風が心地よい素敵なロケーションに恵まれた駅だ。

かたわらには、PC(プレストレスト・コンクリート)鋼材を使った日本最初の橋だといわれる斜張橋がある。

橋の名は「唄げんか大橋」。

かつて子守奉公に出された少女たちが、二組に分かれて互いを揶揄する攻撃的な子守唄を披露したというが、その歌が「宇目の唄げんか」であり、子守姿の少女像が、道の駅の敷地内にも立っている。

山里の宇目の特産物としては、椎茸と九州一の収穫量を誇る栗、そしてブルーベリーが有名。

しかし、最も山里らしい「食」と言えば猪肉と鹿肉。

道の駅の『レストランうめりあ』では、それらを使った料理で観光客を驚かせ、喜ばせている。

例えば「ししラーメン」(800円)。

豚肉チャーシューの代わりにスライスした焼き猪肉が載る。スープはみそ味。

店長の田村亮氏によると、みそは名古屋の赤みそと九州の白みそ2種のブレンドとのこと。濃厚でコクの深いスープにちゃんぽん麺のような太麺が絡み、やや大振りの猪肉が、ほどよい歯ごたえで、その存在感を示す。

しかもモヤシやネギもたっぷり。

とかく猪肉というと、「けもの臭い」という

イメージが付きまとうが、宇目の猪は栗、どんぐりなど木の実を食べているため、肉の匂いが薄いことが特徴。硬さも、コリコリとした中に弾力感を与える程度で、文句なしにおいしい。

「猪肉の鉄板焼」(1300円)、「しし肉角煮丼」(1000円)、さらには、「しし炒飯」(850円)と、ここでは猪肉が、豚肉に代わる地位を占めている。冬は「しし鍋定食(味噌仕立て)」(1300円)、「ししすき鍋定食」(1300円)もいい。

もうひとつの名物の味は、鹿肉。鹿肉は脂身が少なく、ローカロリーでヘルシーな食肉だが、やはり一般にはなじみがない。しかし、山深い地域では昔から大切なタンパク源の一つだった。同レストランでは「しか肉のカットステー

キ」(1300円)、「鹿カツカレー」(1200円)とその定食(1200円)などを出す。鹿肉料理は、冷めてしまうと身が硬くなるという。しかし、このレストランでは冷めても硬くならない肉の処理を施しているため、時間が経ってもおいしさが持続する。

実際、柔らかくクセがない。脂身が少ない肉でありながらバサつきもない。黙って出せば鹿肉とは気づかないだろう。先入観より、まず実食。それが、新しい「おいしさ」の発見をもたらす。

## グルメのあとは、キャンプ場泊

グルメを堪能したあとは、ここでついでに宿泊するのはどうだろう。道の駅に隣接して、「ととろの森 うめキャンプ村」があるからだ。食材は当然、隣の物産所で調達できるの

で、実に便利。オートキャンプサイトは、冬期は1区画2000円～。AC電源、炊事場、水洗トイレ、温水シャワーなどが備わる。ほかに貸別荘感覚のケビンもある。

利用者に人気が高いのは、石釜焼きビザ。これを自分で作ってみるのも面白い。

ペットブームを反映して、ドッグランが新設されるようになってから、ペット連れ利用客も増えた。

キャンピング、食事、物産・土産購入が一通り楽しめる道の駅宇目。

もう一つの隠れたお楽しみ、それは野生鹿、猪、タヌキ、イタチ、ウサギなど山の動物との遭遇。アニマルウォッチングもぜひ楽しんでほしい。



「猪肉の鉄板焼き」

人気メニューの「しか肉のカットステーキ」

# 寝遊備食

「くうねるあそび」  
kuu-neru-aso-bi



道の駅「宇目」の物産展



道の駅「宇目」

Information .....

道の駅宇目(年中無休)  
大分県佐伯市宇目大字南田原2513-5

◆レストハウスうめりあ  
☎0972-54-3090  
営業時間 9:00～18:00  
レストラン 10:00～18:00

◆宇目農林産物直売所  
☎0972-54-3680  
営業時間 8:00～18:00(年末年始休み)

◆ととろの森 うめキャンプ村  
☎0972-54-3088(年末年始休み)  
大分県佐伯市宇目大字南田原2513-3

取材協力(写真&情報提供) 「ふらっと」 編集部





名物「桜島美湯豚」を使ったロースカツ定食



雄大な桜島と錦江湾を見渡せる明るいレストラン

名物「桜島美湯豚」を使った焼肉丼

天然温泉の湧き出る「温泉館」

長さ60mを誇る日本最大級の足湯

## キャンピングカーで、日本中のグルメを堪能 九州編

潮の香り満ちあふれる海鮮料理で、  
お腹も心も大満足  
道の駅 たるみず(鹿児島県)

目の前に、雄大な桜島と錦江湾が広がる道の駅「たるみず」。

ここは、垂水市で獲れた新鮮な海産物と農産物をふんだんに使った郷土料理の人気レストランが有名。窓面積の大きなガラス張りの室内にはいつも南国鹿児島島の明るい日差しが降り注ぎ、そこから眺める錦江湾と桜島の風景を愛でつつ食べる海鮮料理は、とにかく格別のおいしさだ。

一番人気は、リーズナブルな料金で最高の海の幸を集めた「海鮮丼」(1000円)。顧客の満足度も高いメニューだ。鹿児島名物

キビナゴはもちろん、ブリ、カンパチ、甘エビ、いくら、イカ、そして厚焼き玉子を酢飯の上に盛り付けている。ブリは錦江湾の養殖生簀で育ったブランド魚「ぶり大将」。さらにカンパチも同様に「海の桜勘(おうかん)」のブランド名を持つ。

また、「桜島美湯豚」を使った焼肉丼、ロースカツ定食(1300円)なども一度は食べてみたい料理。

「桜島美湯豚」は、弱アルカリ性のラドン温泉を養豚場に引き入れ、その温泉水で育てた豚。温泉効果で健康に成育され、さらに、飼育環境と飼料にもこだわって育てられているため、肉の脂身がさっぱりしているのが特徴。そのまろやかでほのかな甘みを伴ったジューシーな味わいは、一度食べたらや

みつきになると言われるほど評判だ。

物産コーナーにも、おいしい食材がところ狭しと並べられている。

なにしろ、この垂水は、ブリ、カンパチの出荷量で日本一を誇る町。キャンピングカーの冷蔵庫を使って保存しておけば、その日のキャンプ場での夕食の目玉になることは請け合いだ。

ほかにも、高級焼酎の代名詞ともなっている「森伊蔵」や、温暖な気候を利用して栽培される「びわ」も、ぜひ地元名産のおみやげとしてマークしておきたい。

この道の駅「たるみず」の楽しみは、なんといっても天然温泉。

そもそも「垂水」の名の由来は、「水湧き出る町」。豊かな水資源に恵まれた町なのだ。温泉館の泉質は「ラドン単純硫黄泉」で、ラドン含有量は通常の34倍。大浴場と露天風呂からも桜島と錦江湾を望むことができる。毎月第3火曜日は入浴料が大人100円、子供50円(通常大人330円、子供180円)になるので、お見逃しなく。

とかく観光客の話題になるのは、日本最大級の足湯。その長さは60メートル。道の駅の足湯としては最長を誇る。

雄大な桜島を目の前にして、足湯を楽しめば、旅の疲れもあつという間に癒される。利用時間は日没まで。夕陽にそまる海を眺めつつ、足を温め、雄大な南国鹿児島島の空気をたっぷり吸おう。



南国の鹿児島らしい景観に恵まれた道の駅「たるみず」

Information .....  
道の駅「たるみず」  
鹿児島県垂水市牛根麓1038-1  
☎0994-34-2237

◆天然温泉「湯つり館」  
平日 13:00~21:00 / 土日祝 10:00~21:00  
入浴料 大人330円 / 子供180円  
足湯 10:00~日没(無料)  
レストラン 9:00~20:00(刺身定食1200円ほか)  
物産コーナー 9:00~20:00  
(獲れたてのブリ、カンパチ等)

# 寝遊備 食

[くうねるあそび]  
kuu-neru-aso-bi

メニュー一番人気を誇る「海鮮丼」



## 九州・沖縄の道の駅・産直所と旅の情報を発信するフリーペーパー「ふらっと」

「ふらっと」は、九州・沖縄の道の駅・産直地と旅の情報を発信する季刊のフリーペーパー。出版社勤務を経験した後、フリーライターとして活躍していた晴野まゆみさんが編集の先頭に立って、道の駅を軸とした九州観光の楽しさを教えてくれる。美しい写真と楽しい記事によるグルメ情報・観光情報には定評がある。



「ふらっと」冬号



「ふらっと」編集長の晴野まゆみさん

取材協力(写真&情報提供) 「ふらっと」編集部



キャブコンのフロアベッド

バンクベッド

輸入車の固定(常設)ベッド

他の乗用車と比べて、キャンピングカーの特徴がいちばん表れるのは、ベッドである。

もちろんキャンピングカーは、ベッド以外に、ガス、水道などのライフラインを備えているものがほとんどで、中には、トイレやシャワー設備をもつものもある。

しかし、普通の乗用車と比べて、いちばん大きな違いは「しっかり寝られるベッド」を持っていること。

乗用車の場合は、少し違う。

たとえ、リクライニング機構を備えていて、車内全体が平らになるようなクルマがあったにせよ、基本的には、それはシートアレンジのひとつにすぎない。とてもキャンピングカーのように、身体を凹凸のないスペースの上に思いっきり伸ばして、リラックスできるような“ベッド”にはならない。

人間の疲労回復には、快適な睡眠が欠かせないが、それを保証してくれるのがキャンピングカー。だから、長距離旅行も楽しませる「くるま旅」が可能になるわけだ。

### 効率よく二役をこなすフロアベッド

一口にキャンピングカーのベッドといっても、その種類や構造、大きさによってさまざまなスタイルがある。

いちばん分かりやすいのは、フロアベッド。「ダイネットベッド」ともいわれるように、通常は食事をするためのテーブルとシートを操作して、就寝時にそこをベッドスペースに変えるというもの。椅子やテーブルを操作するため、ベッドメイクに多少の時間とコツを要するが、スペース効率が良いので、キャブコン、バンコンを問わず、小型～中型キャンピングカーではよく採用されている。

一方、同じフロアベッドでも、輸入モーターホームのように、固定ベッド(常設ベッド)を持つものもある。これはベッドメイクの必要がないので、眠くなったらすぐに寝られる利点はあるが、ある程度の室内容積を持ったキャンピングカーでないと、室内を有効活用できない。

### 就寝人数を増やすのに最適なバンクベッド

バンクベッドは、キャブコンといわれる車種に代表される「運転席の頭上に設置されたベッド」のことをいう。バンクとは「寝台」の意味だから、特に運転席頭上のベッドを指すとは限らないが、慣例的にキャブコンの運転席頭上に張り出したベッドを意味する場合が多い。

このベッドは、運転席上部というデッドスペースを効率よく使うために、就寝人数を増やすところにメリットがあるが、お年を召した方や小さなお子さんには、多少乗り降りが不便なところがある。それを解消するために、ラダーを付けて乗降性を向上させている車種もある。

## 安眠・快眠・楽眠 キャンピングカーのベッドは こんなに素敵！



ブルダウンベッド

### スペースを無駄にしない2段ベッド

ベッドスペースを上下2段に分け、同一平面上で就寝人数を増やしているのが、2段ベッド。キャブコンなどでこの2段ベッドを採用する場合は、最後尾に横方向に設定されることが多い。バンコンでは、横幅が取れないため縦方向で使われているのをよく見る。就寝人数を効率よく増やすことができるので、一部のトレーラーにも普及している。

基本的には、家族の多いファミリーを意識して開発されたベッドスタイルだが、二人旅のように、就寝人数が2段ベッドで収まる時は、いちいちダイネットベッドを展開する必要がなくなるというメリットが生まれる。つまり、テーブルをたたんだりする作業を必要とすることなく、ベッドスペースを展開できるという気楽な過ごし方ができる。

### バンコンで威力を発揮するルーフベッド

キャンピングカーのルーフ上に設定されるベッドで、通常、ポップアップルーフを持つバンコンなどで見られる。

もちろん、ポップアップルーフを開けなければベッドスペースは生まれないが、宿泊地に停めてポップアップルーフを開ければ、ルーフ上にもひとつの“部屋”が出現することになり、とても便利。軽自動車キャンピングカーや小型バンコンでポップアップ構造を持っている車種は、このルーフベッドの存在がかなり威力を発揮するはず。また、人が寝る場所として使うよりも、宿泊中の荷物スペースとして活用する人も多い。

ルーフテントの素材はたいてい防水加工されているので、少しぐらいの雨ならさほど気にすることもない。メッシュの窓が付いて

いるものなどは、夏はそこから快適な風を導入することができる。

### バンクベッドの代わりに務めるブルダウンベッド

主に輸入車のクラスA、それもヨーロッパ車でよく見るベッドスタイル。運転席上の天井に貼り付くように格納されているベッドのことを指し、使うときにそれを手動(もしくは電動で)下におろす構造になっている。

バンクベッドを持たないキャブコンなどでは、就寝人数を増やすには最適で、盆正月の休みなどに帰省した家族を、急遽乗せて旅行に出かけるときのような、不意のゲストが来たときのベッドとして重宝する。



2段ベッド

ポップアップルーフのルーフベッド

# 食寝遊備

[くうねるあそび]  
kuu-neru-asobi